

古賀メロディー ホールコンサート



10/12 日

入場
無料

(開場 午後1時45分)

開演 午後2時30分 — 終演 午後3時45分

川崎町山村開発センター

主催：川崎町 / 古賀メロディーギターアンサンブル

共催：川崎町観光協会 / (一財) 古賀政男音楽文化振興財団

お問い合わせ

古賀政男顕彰実行委員会 (川崎町役場地域振興課内)
☎ 0224-84-2117

名曲「影を慕いて」をはじめ
懐かしの古賀メロディーに
包まれましょう。

なつかしい古賀メロディー

今から97年前の昭和3年、夏の終わりに古賀政男先生は青根温泉に宿をとります。しかし、当時24歳の古賀青年は、失恋、生活苦、未来への失望を抱えており、自殺未遂を図ることに。この時の胸のうっ屈が凝固して、あの詩となり曲となったと言われています。青根温泉は名曲「影を慕いて」を生んだ場所です。

音楽家には、幼少から英才教育を受けた人が多いなかで、古賀先生は貧しく、音楽とはかけ離れた境遇にありました。しかし、生まれ故郷での祭りや旅芸人との出逢い、人々との悲しい別れを通じて優れた感性と音楽性を体得していくことになります。

そのような貴重な体験が、いかに名曲につながっていくのか、古賀政男記念館の館長さんがわかりやすく話してくれます。「人生の並木路」「誰か故郷を想わざる」等は、館長さんの話を聞けば、自然と涙が流れてきます。

さあ、なつかしい古賀メロディーの世界へ——

川崎町長 小山 修作



古賀政男 1904 ~ 1978



※古賀メロディーギターアンサンブル

福岡県在住者等で構成。今もなお愛唱され続けている「古賀メロディー」をベースに広く演奏活動を継続。川崎町には平成24年4月の東日本大震災復興支援コンサートをきっかけに古賀政男顕彰事業に参加。名曲がいかにしてできたのか、古賀政男記念館・館長（左から3番目）が曲の解説をしながら進行していきます。あつという間のコンサート、お見逃しなく。



毎回大好評のコンサート

当日披露される曲

影を慕いて／酒は涙か溜息か／丘を越えて
サーカスの唄／奥飛騨慕情／東京ラブソディ
人生の並木路／柿の木坂の家／人生劇場
誰か故郷を想わざる／湯の町エレジー
悲しい酒／若いお巡りさん 等々

※歌詞カードを配付します